

ロボットテクノロジーと作業療法

特集にあたって

作業療法においても、ロボット技術(以下、ロボットテクノロジー)がもたらすパラダイムシフトが起きている。

近年、「ロボットリハビリ®」という言葉が誕生する等、国内外で、ロボットテクノロジーが活用されつつある。また、機械工学や情報処理技術の発展により、医療・介護分野においても、ロボットをはじめとして、医学と工学の連携やその技術の応用が進んでいる。さらに、国の施策である、「経済財政運営と改革の基本方針 2016」、「ニッポン一億総活躍プラン」、「日本再興戦略 2016」等においても、「ロボット」というキーワードが散見される。

介護分野での介護ロボットの活用促進や、リハ領域における治療や支援技術としての機械工学等の応用、作業療法の治療手段としての道具や機器のハイテク化も進んできている。そして、近い将来、その代表的な手段として、多種多様なロボットテクノロジーが、私たちの生活や作業療法の中に、あたり前に存在することになるだろう。いや、もうそうなりつつあるのかもしれない。

作業療法の治療手段の一つとして、道具や器具を用いる方法がある。その目的は、機能回復や代償補完、環境適応等であり、障害があっても自分らしく生きるための生活能力が獲得できることで、いつの時代もその考え方は変わることはない。手段や方法が多様化するだけなのである。

今回の企画では、先駆的ロボットテクノロジーに取り組んでいる方々から、作業療法における成果と課題について最新の情報を発信していただいた。各論稿を基に、作業療法におけるロボットの活用と今後の展望を考えていきたい。(柴田八衣子)

企画担当

柴田八衣子 (兵庫県立総合リハビリテーションセンター, OT)

宮崎明美 (旭川荘みどり学園, OT)

中村春基 (日本作業療法士協会, 会長・OT)